広報 かわねほんちょう 平成22年 4月号

手作りの巨大ハンモックは、半年がかりの一大プロジェクト。完成をみんなで喜び合った

本川根小５年生が「森林」学習の総括として出前講座を受講。

わたしたちと共にある 本町の森林（もり）のことを学ぼう

this month HighLight 今月の注目 8

本川根小の５年生（平成21年度時点）は、自分たちをやさしく包み込むこの町の森林について、地域の人の協力を得ながら、１年かけて学びました。総括として開かれた出前講座の様子と、１年間の取り組みをレポート。

身近なようで遠い存在「森林」

本川根小5年生は、総合学習の一環として「森林の現状」について1年間学びました。

学習の題材に「森林」を選んだ理由について、担任の渡邊隆士先生はこう話しました。「森林は、近くて遠い存在だと、常々感じていたんです。緑の山々はいつも目の前に見えているのに、そこに足を運ぶ機会というのはめったにありません。豊かな自然は、この町の自慢の一つ。町を見つめ直すきっかけになればと思ったんです」。

森林と触れ合うハイキングや森林組合が実施する間伐作業の見学を通して、子どもたちには一つの疑問が浮かび上がりました。それは「なぜこんなに立派な木が、高い値段で売れないのか」ということ。間伐は豊かな森林をつくるために大切な作業ですが、そこで切り出された木材は思うように売れないという実態があります。それを知った子どもたちは「間伐をテーマにしよう」と決め、本格的な学習がスタートしました。

「森林が荒廃してしまうとどうなるのか」「間伐材（国産材）が売れない理由」「どんな木製品なら需要があるのか」など、それぞれの子の視点で学習は進められました。

学習と平行して取り組んだのが実際に間伐材を使ってみること。後藤李佳さんのおじいさんが提供してくれた間伐材を使って、巨大なハンモックづくりに挑戦しました。みんな日曜大工の経験なんてありません。のこぎりやなたを振るい、悪戦苦闘を続ける日々。夏に始まった作業は、いつの間にか冬を迎えていました。

1年間の森林学習を総括して2月9日、森林や林業を学ぶ出前講座を開きました。講師は産業課の鈴木浩之林業係長。講座を通して、森林や木材管理の歴史、木材の輸出入の実態、環境問題との関係などについて学びました。受講した子どもたちはノートを取りながら、熱心に耳を傾けていました。

鈴木係長は講座の最後、「皆さんが学んできたようなことを、今、町でも一生懸命取り組んでいます。みんな森林に興味を持ってくれてありがとう」と児童に語りかけ、講座を締めくくりました。

渡邊先生は講座のあと、取材に対してこう語りました。「あれもない、これもないと町の現状を嘆くのではなく『今ここにある魅力』を探す授業をしたいと考えていました。『子どものためなら』という理由で、たくさんの大人が手を貸してくれる本町は、本当にすてきな町です。子どもたちにはずっと、豊かな森林のこと、そしてこの町のことを考え続けていって欲しいと思います」。

工夫して価値を生む 石原愛澄美さん

日ごろ使っている家具や紙にまで間伐材が使われていることにびっくりしました。アイデアを凝らした木製品にすれば、間伐材に価値が生まれ、販売することができると考えました。

林業の歴史を大切に 久保野渓大くん

森林が荒廃すると動物や植物、人間でさえも住む場所を失ってしまいます。本町は昔、林業が町を支えていました。この歴史をもっと学び、大切にしたいと思っています。

都会の人に伝えたい 佐渡風香さん

安価な外産材の普及が、間伐材の利用促進に歯止めをかけています。日本の国土の約７割を占めている森林。国産材の実態を、都会の人にこそ知って欲しいと思いました。

広報かわねほんちょうではお便りを募集しています。
おハガキ、ファクスなど気軽にお寄せください。FAX（56）2235　企画課 広報情報室 広報担当まで

発行：川根本町役場　編集：企画課広報情報室　住所：〒428－0313　静岡県榛原郡川根本町上長尾627　☎0547（56）2221　広報かわねほんちょうは、古紙配合率30％の再生紙を使用しています。